

## 新規分野の概況

### ACE事業部

#### 可能性の広がるTHKの免震・制震技術

ACE(Amenity Creation Engineering)事業部は、2001年の発足以来、「快適さを求め、独創的な生活空間を、技術開発していこう」をコンセプトに、THK独自の「ころがり」化技術を活かし、地震の脅威から人々の生命や財産を守る免震・制震装置を開発・販売するとともに、ホームオートメーション関連機器への採用の増加にも取り組んでいます。

THKの免震・制震装置の特長は、LMガイド、ボールねじなどのTHKの基本技術を応用することにより、高層ビルから戸建住宅、社寺建築などの歴史的な構造物まで、様々な建築物に十分な効果を発揮できる幅広い製品ラインナップを揃えていることです。また2011年3月11日に発生した東日本大震災を契機に、企業のBCP(Business Continuity Plan: 事業継続計画)に対する意識の高まりから、サーバーや各種製造装置などの企業の重要な事業資産を地震の被害から守る部分免震対策の需要が急増する中、独自の免震・制震技術のノウハウを応用した部分免震装置の普及を図っています。

2011年度については、引き続きTHK製品の優位性を強調した積極的な販売活動を実施し、ACE事業部の売上高の7割強を占めるビル免震を中心として採用棟数を着実に増加させたほか、部分免震装置の採用数を前期比で大きく伸ばすことができました。特に2011年度に市場投入した「免震モジュール TGS型」は、従来品に対して減衰機能を加えるとともに、自由な連結性により幅広い用途での部分免震が可能となり、非常に多くの受注を頂きました。なお当製品は日刊工業新聞社主催の第54回「十大新製品賞」において「本賞」を受賞しました。このことは、当製品が地震対策を通じて社会に大いに貢献できることを評価して頂いたものと考えています。



戸建免震採用例



#### ラインナップの拡充と普及・販売活動の強化

世の中の災害対策への意識が急速に高まる中、免震・制震装置の需要は長期的に増加していくものと考えられます。ACE事業部では、引き続き設計事務所やハウスメーカーなどにTHKの免震・制震技術の優位性をPRしていくとともに、災害発生時に緊急災害対策本部として機能すべき官公庁舎などの公共建築物への採用も積極的に働きかけていくなど、販売先の多様化を図っていきます。また、需要が急増している部分免震装置においてもラインナップを拡充し、今後、多様化が見込まれる地震対策のニーズにお応えしていくとともに、測定器などの精密機器への免震対策としての有効性など、当社製品の幅広い用途をアピールしながら拡販に努めていきます。

2012年度は、制震関連の製品として、新型「減衰装置 iRDT」を市場投入します。当製品は長周期地震動による揺れ幅を抑えるとともに、その高い減衰効果により設置数を抑えることでコスト削減が可能で、新築建物だけでなく既存建物の耐震改修にも利用できるため、今後の大きな需要が期待できます。また、一般消費者の方々に対しても、免震・制震装置の導入の重要性やTHKの優れた技術・製品をご理解いただくため、従来のセミナー開催などの普及活動に加え、免震体験車を有効活用した販促活動を実施していきます。



免震テーブル採用例  
(サーバー免震)

## 新規分野の概況

### FAI事業部

#### 輸送用機器分野における収益拡大に向けて

FAI(Future Automotive Industry)事業部は、THK製品の自動車部品としての採用拡大を目的に1999年に発足しました。同事業部の主力製品である鋼球をアルミダイカスト製造でくるんで、鋼球とホルダを一体成形したリンクボールは、ホルダが鉄製の従来品に比べて軽量ながら高い耐食性、耐摩耗性を実現しています。燃費の向上が求められる中で、国内外の大手自動車メーカーから高い評価を受けています。また、2007年には、優れた鍛造技術を持つ自動車部品メーカーである株式会社リズムを連結子会社化しました。以来、FAI事業部ではリズムを加え、一体となり事業を展開し、2010年6月には連携をより一層強化すべく、リズムの商号を「THKリズム株式会社」に変更しました。さらなるシナジーを追求し、世界の自動車市場の変化に対して迅速かつ確に対応することにより、存在感のあるサプライヤーとなることを目指しています。

#### THKリズムとのさらなるシナジーの実現に向けて

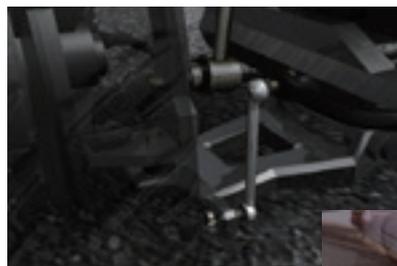
FAI事業部を取り巻く環境としては、中長期的には自動車の生産地域の拡大と新興市場での需要の増大が見込まれます。また、世界的な環境保全ニーズの高まりとともに、自動車の軽量化、省エネルギー化がますます進んでいくことが考えられ、ハイブリッド自動車や電気自動車が普及していくことが予想されます。こうした中で、採用数の一層の増加に向け、THKリズムとのシナジーをさらに高めるべく取り組んでいます。

これまでの具体的な成果として、【管理面】では、管理機能をTHKリズム本社に集約したことにより、従来より多くの受注を少ない人員で対応することが可能となり、採用拡大のスピードを高める体制を構築することができました。【販売面】では、国内外の完成車メーカーとの取引があるTHKの販路を活かしたTHKリズム製品の提案を実施するとともに、海外における支

店の統合やスタッフの連携強化なども図っています。【生産面】では、グローバルな事業展開の推進、機動的かつ効率的な事業運営と、輸送用機器関連事業のさらなる収益力向上を目的として、国内においてTHK製品であるリンクボールの製造をTHKリズムに移管しました。LMガイドのトップメーカーであるTHKの持つ高い生産技術力に加え、自動車部品メーカーのTHKリズムならではの生産管理手法及び品質管理手法などによって、よりコスト競争力のある製品の生産が可能になりました。【技術面】では、双方の技術交流を促進すべく分科会を設置しました。ここでは、THKリズムが持つ鍛造技術をTHKのコア製品であるLMガイドの生産へ応用させるなど、今後、民生品分野での採用拡大に向けて、LMガイドのコスト競争力を高める活動を実施しています。このように管理、販売、生産、技術それぞれにおいて、THKリズムとのシナジーは顕在化しています。

2011年度はこれらの取り組みに加え、アジアの需要の拡大に対応すべく、TRW Steering & Suspension Malaysia (現THK RHYTHM MALAYSIA)の株式を取得しグループに加えるなど、積極的に事業の拡大を図りました。その結果、グローバル規模での採用車種の着実な増加を果たすことができました。

2012年度は需要が拡大する新興国での生産体制を強化すべく、中国ではTHKリズム常州が客先納入を開始します。メキシコでは、メキシコのほか、南北アメリカへの製品供給も見据え、THK RHYTHM MEXICANAを設立します。今後も採用数の増加に向けてシナジーの顕在化への取り組みをより加速させるとともに、LMガイド、アクチュエータといったTHKが持つコア製品の採用の増加を図ることにより、輸送用機器分野における収益性を向上させていきます。



リンクボール採用例



## 新規分野の概況

### IMT事業部

#### 電動アクチュエータ、ユニット製品の採用拡大に向けて

IMT (Innovation Mechatronics Technology) 事業部は、2009年6月に、今後大きな市場の拡大が見込まれる電動アクチュエータ事業と、THKグループのユニット製品事業の拡大を目的として創設されました。

近年、生産性向上のニーズから半導体製造装置や薄型パネル製造装置などの産業用機械において高性能化・多機能化が進む中、より合理的な機械設計が求められ、モノを動かしたり、制御したりする機械的あるいは油圧・空圧的装置であるアクチュエータの需要が増加するものと考えられます。特に、地球環境保護の機運が高まる中、アクチュエータの中でも油圧・空圧に比べてエネルギー効率に優れた電動アクチュエータの需要が増加していくものと考えられます。また、今後は産業用機械のみならず、生産ラインなどにおける電動化の一段の進展も見込まれています。

こうした事業環境の中、IMT事業部は、THKの持つ「独創的な発想と独自の技術」を活かして市場開拓に取り組んでいきます。まずは産業用機械への電動アクチュエータ及びユニット製品の採用拡大を図っていきます。また、フィットネス機器や介護機器などの生活環境機器分野においても多様な需要が存在しており、これらを顕在化して収益拡大に繋がられるよう、各種用途に合わせた電動アクチュエータの開発を加速し市場開拓を図っていきます。

#### 市場ニーズに応じた事業体制の構築

IMT事業部は創設以降、幅広い顧客ニーズに対して的確かつ迅速にお応えできる販売システムを構築するとともに、徹底した人材教育に取り組んでいます。具体的には、従来の各電動アクチュエータの単独カタログを一冊の総合カタログとして刷新するとともに、動画などを盛り込んだWebサイトを新設し、製品案内ツールとしての利便性向上を図りました。また、お客様からのお問い合わせや技術相談などに的確に対応するため、電動アクチュエータ専用のカスタマーサポートを設置しました。人材教育では、高度な技術ナレッジの修得をはじめ各種スキルアップ・トレーニングを実施しました。

そして2011年度は、顧客ニーズを再確認しながら市場動向を分析、その結果を反映させた新製品を開発し、製品ラインナップを拡充しました。今後は、これら新製品の拡販を積極的に推し進めつつ、プライベートショーや技術セミナーを随時開催し、お客様の課題解決を提案しながら電動アクチュエータ全般の採用拡大に努めていくとともに、次世代のアクチュエータの開発を積極的に推進していきます。また、日本の事業体制の強化は勿論のこと、米州、欧州、アジアへのグローバル展開を図る中で、特に市場拡大が見込まれるアジアにおいて、現地での生産販売体制の基盤づくりに積極的に取り組んでいきます。

